

ペン・ネット付け句（令和2年5月）



会場の都合により4月よりネット付け句会を開催中。今月は長尾さんの出題でボルダリングの写真です。

寸評：

- 1) 「三密」を避けたは良いが命がけ 長尾 進一郎
コロナ騒ぎを上手く取り入れている。命がけは大袈裟（大月）

「三密」はすっかり流行語になった。高所は老人から見れば
まさに命がけだ。(中村)

墜ちれば大怪我、野外運動も選ばないとね(松田)

2) 肺壁に入り込んでるウイルスめ 清水 勝

何を見てもコロナを思い浮かべる怖ろしさ(長尾)

ビル壁を肺に競技者をウイルスに見立てた着想が面白い
(大越)

3) 一石二鳥遊んでないで拭き掃除 新田 由紀子

スポーツとしての壁登攀と壁の掃除をだぶらせる庶民感覚
のおかしさ(大月)

勤勉で綺麗好きな日本人はどんな時も掃除を忘れない

(三春)

壁登りだけで済まさず汚れた壁掃除をしてほしい(清水)

4) 遅刻だぞ見つからないで席につけ 長尾 進一郎

私も遅刻をごまかすために窓から侵入しました(三春)

窓際の彼女は上手く席に着けそうですね(清水)

5) その昔お転婆今ではアスリート 中村 晃也

懐かしい響き「お転婆」、今では男より強い(長尾)

昔の女の子はしとやかさを求められ、活発な女の子はお転婆と云われて敬遠されたが、今ではマスコミでアスリートと言われ持て囃される（松田）

6) 巣ごもりで気力筋力ふ～やふや 三 春

コロナ疲れと運動不足で病気になる人が増えそう（長尾）

7) セーフティネット頼りの労働者 安藤 晃二

コロナ騒ぎで仕事を失う労働者が多い。壁登りに備わっているセーフティネットが欲しい。労働者の切実な願いに思いをはせた想像力と表現を評価（大月）

8) 先をゆく女の尻を見詰めつつ 中村 晃也

やはり、何か楽しみがないとね、修行僧の心中を捉えている（安藤）

ありそうな話。でも接近しすぎでは蹴飛ばされる恐れあり！（三春）